



令和4年12月16日

お知らせ

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
内容が変更になる場合があります。

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
TEL (075) 841-0096

文化庁移転記念事業
「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開 令和4年度第4期

新春を寿ぐ ～ 松竹梅 ～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しています。この度、第4期原画公開「新春を寿ぐ ～松竹梅～」の開催について、見どころをお知らせします。本展は、壮大な松、虎が住む竹林、うっすら雪を積もらせた初春の梅や松を各棟より選んで展示することで、江戸時代初期に描かれた松竹梅の背景について探ろうとするものです。

是非、この機会に二条城へお越しく下さい。

- 1 会期** 令和4年12月23日（金）～令和5年2月23日（木・祝）〔60日間〕
※12月29日～31日は休館
- 2 入館時間** 午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分）
※ 二条城の入城受付は、午後4時まで。
- 3 会場** 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館
（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）
※ 二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。
- 4 入館料** 100円（未就学児無料）
※ 別途入城料が必要です。
※ 市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

- (1) 〈式台〉式台の間障壁画《松図》（障壁画面数：10面）
〈遠侍〉三の間障壁画《竹林群虎図》（障壁画面数：10面）
〈黒書院〉一の間障壁画《松柴垣禽鳥図》（障壁画面数：7面）
- (2) 解説及び見どころ 裏面のとおり

6 関連事業

- (1) 国宝・二の丸御殿＜黒書院＞二の間 特別入室
ア 期間 令和5年1月4日（水）～令和5年1月30日（月）

※毎週火曜日は御殿観覧休止のため、入室できません。

イ 内容 徳川家に近い大名等が将軍と対面した<黒書院>。通常は、廊下からの観覧ですが、今回、大名等が実際に座った「二の間」に入室いただき、「一の間」の将軍と向き合った往時に思いを馳せていただきます。こちらでは、障壁画（模写画）や天井画（原画）などを間近で御覧いただけるほか、一の間を彩る松竹梅（展示収蔵館で原画を公開）で初春の気分を感じていただけます。

(2) 学芸員解説会

ア 開催日 令和5年1月6日（金）、1月16日（月）

※解説内容は両日とも同じです。

イ 時間 午前10時～（約60分）

ウ 場所 大休憩所北側 レクチャールーム


エ 定員 30名（事前申込制、抽選）

※当選者のみ郵送にて5日前までにお知らせします。

オ 参加費 無料

※別途入城料が必要

カ 申込方法 京都いつでもコールに電話、FAX、メールのいずれかで参加希望日（複数日参加不可）、参加者全員の氏名（1回につき3名まで申込可）、ふりがな、代表者の住所・郵便番号、電話番号を明記

| | |
|---|--------------------|
|  | 京都いつでもコール（年中無休） |
| | 電話：075-661-3755 |
| | 電話での受付時間：午前8時～午後9時 |
| | ※おかけ間違いに御注意ください |
| | FAX：075-661-5855 |
| メール：以下の送信フォームを御利用ください。 | |
| https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html | |

キ 申込期間

| 実施日 | 申込開始日 | 申込締切日 |
|----------|----------|-----------|
| 1月6日（金） | 12月1日（木） | 12月20日（火） |
| 1月16日（月） | | |

ク その他 二の丸御殿内での現地解説は行いません。



<黒書院>二の間



<黒書院>二の間から一の間の眺め

入城受付時間及び料金

1. 入城受付時間

午前8時45分～午後4時（閉城は午後5時）

- ・12月29日～31日は、休城日です。
- ・開城日のうち、12月26日～28日、1月1日～3日、12月及び1月の火曜日は、二の丸御殿を観覧できません。

2. 料金

一般個人1,300円、一般団体1,100円、中学・高校生400円、小学生300円、小学生未満無料（各料金ともに二の丸御殿観覧料含む）

- ・12月26日～28日、1月1日～3日、12月及び1月の火曜日は、一般個人800円、一般団体700円です。
- ・展示収蔵館の入館料は100円（別途入城料が必要）です。

7 お問い合わせ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地
TEL：(075) 841-0096 FAX：(075) 802-6181

新春を^{ことほ}寿ぐ

—松竹梅—

真冬でも青々と葉を茂らせる松、積雪にも折れず、また色あせない竹、寒中に蕾をつけて花を咲かせる梅。中国において、松・竹・梅のそれぞれが吉祥文様^{きっしょうもんよう}として絵画に描かれるようになった歴史は古く、「松竹梅の取り合わせ」で描かれるようになったのは、南宋^{なんそう}(1127-1279)頃と考えられています。初め、松竹梅は石や水、蘭^{らん}などと描かれることがありましたが、次第に『論語』^{ろんご}に由来して、風雪や厳寒に耐える「歳寒^{さいかん}の三友^{さんゆう}」として定着しました。「歳寒の三友」とは、苦しい時期を乗り越えてこそ、人の本当の価値がわかるという、君子^{くんし}の節操^{せつそう}を例えた道徳を示すものです。

日本において、中国から伝来した松・竹・梅のそれぞれの意匠^{いしょう}は、吉祥を意味するものとして、平安時代頃に貴族の間に定着しました。「松竹梅の取り合わせ」は、鎌倉時代頃、禅宗^{ぜんしゅう}の流行とともに知識人の間で用いられ始めますが、絵画や工芸品などの意匠で多く見られるようになるのは、時代が下った江戸時代中期以後のことです。この頃から民衆の間で、お正月や結婚式などの儀礼の際に、衣装や装飾、地歌^{じうた}や箏曲^{そうきよく}などで徐々に用いられるようになり、おめでたいことを象徴するものや縁起物として、現在のように定着していったと考えられています。

中国における「松竹梅の取り合わせ」は、道徳的なもので、日本のように、おめでたいことを象徴するものや縁起物として用いられませんでした。日本の「松竹梅の取り合わせ」は、江戸時代の半ば以降、独自に発展し、和様化^{わようか}したものといえます。

江戸時代初期に描かれた二の丸御殿の障壁画の松竹梅は、和様化して広く一般に認められる以前のものであり、中国から伝来した道徳的な意味合いを色濃く残しているものと考えられます。現在の私たちとは違う感覚で描かれ、見られていただろう二の丸御殿の松竹梅。一味違った松竹梅をご覧ください、新春を寿いでいただけたら幸いです。



〈黒書院〉一の間障壁画《松柴垣禽鳥図》部分



〈式台の間〉式台の間障壁画《松図》部分